

◇令和5年度 北海道岩見沢高等養護学校 学校運営協議会 委員◇

- ・横山 孝博 様（岩見沢あかり家 施設長）
- ・三好 由美子 様（地域生活支援センターあ〜ち 所長）
- ・黄瀬 信之 様（岩見沢市情報政策部 部長）
- ・村上 咲枝 様（岩見沢市立東小学校 校長）
- ・内田 茂伸 様（岩見沢市立東小学校 PTA 会長）
- ・佐々木 規文 様（本校 PTA 会長）
- ・櫻田 なおみ （本校 校長）

令和5年度 第3回 学校運営協議会（記録）

1 日 時 令和6年3月12日（火）10：00～12：00

2 場 所 北海道岩見沢高等養護学校 会議室

出席：黄瀬 信之 様 三好 由美子 様 横山 孝博 様 村上 咲枝 様
佐々木 規文 様 櫻田 なおみ

欠席：内田 茂伸 様

3 次 第

○校長挨拶

お忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。3月1日（金）15名の3年生が卒業証書を手に学び舎を巣立った。陰に日向に応援をいただき感謝します。

2回目の運営協議会はグラウンドに小熊が入るという事態になり、落ち着かない中で会を進めることになった。本校はインフルエンザによる臨時休業（学校閉鎖）明けだったが、以降は感染症が広がることなく無事に3学期を過ごしている。今年度、最後の協議会となる。今年度を振り返るとともに来年度につながるようご意見、アイデアをいただきたい。

○日程説明

別紙の通り

○授業見学（第2校時）

＜芸術＞（1年普通科） ＜英語コミュニケーション＞（1年専門学科） ＜数学Ⅱ＞
（2年普通科） ＜産業情報＞（2年生活科学科） ＜実習＞（2年工業科）
＜ネットワーク活用、簿記＞（2年商業科）

○説明・意見聴取

(1) これまでの主な教育活動の報告

- ・ 12/6 (水) リオ、東京パラリンピックで銅メダルとなった15期卒業生の池崎さんを迎え、講演会及び他校との交流を行った。講演ではこれまでの努力や苦労したことをお話しいたき、後半は車椅子ラグビー体験や記念撮影を行った。東高校生徒6名も来校し交流を深めた。
- ・ 2/9 (火) 1学年の校内実習では、社会のマナーや働くこととは何かを知る、進路実現に生かすことを目的に、ビジネスマナー講習、コールセンター体験に取り組んだ。
- ・ 2/14 (火) 課題研究発表会 工業科は日常生活を豊かにするもの、バランスボールラックの製作、生活科学科は、人や環境に優しい生活、商業科は、おにぎり販売で発表を行った。
- ・ 3/1 (金) 卒業証書授与式 15名が卒業した。

(2) 令和5年度学校評価について（資料参照）

11/17 (金)～12/4 (月) で実施。フォームと用紙提出の両方の提出方法で実施。

評価の値は基準を超える項目が多く、概ね「評価できる」との結果だった。項目は昨年度から変更していない。評価が低めに出たものもあったため、新年度は反省を生かして計画し、実施を進めたい。

評価については紙面を参照していただきたい。

【教職員評価】

おおむね評価できる項目が多い。自由記述では、「職員は、さまざまな障がい種校から異動してくるため、体に関わることで以外の研修もしてほしい。」「心理的安定について深めた方がよい。」「チーム学校の考え方について、外部との連携を進めていきたい」などという意見があった。

【保護者】

回収率78%、寄宿舎利用に関する回収率は58%。「あてはまる」「よくあてはまる」で9割に達している。自由記述として、「3年生に関しては教職員の配置を見極めてほしい。」「寄宿舎生活が不透明で評価が難しい。」「入浴日が多くなると良い。」「部屋の室温を季節にあったものにしてほしい。」「エアコンがほしい。」「各部屋に冷蔵庫があると良い」などという意見があった。

【生徒】

98%の回収率。おおむねよい評価はしてもらっている。「あてはまる」「よくあてはまる」が多くを占めている。「食事時間を短くしてほしい。」「スマホの利用について」の意見のほか、自分の成長についての自己評価も記述されている。

(3) 令和6年度学校経営の方向性について（資料参照）

学校評価について、委員の皆様からご意見をいただくとともに、評価をお願いしたい。

1 2月から学校評価、年度末反省があり、次年度の方向性を作り始めているところ。
令和6年度は現行の学習指導要領の完全実施となる。学校教育目標は変えないが、新しい時代への対応を踏まえて取り組んでいきたい。

学校を生徒、職員、地域の学びの場としても充実させていきたい。

「4 目指す姿」について、次年度は「共生社会の一員として、より豊かに幸福に生きていくための資質、能力、意欲を高める」を真ん中に置いた。社会で生きていくための力をクリアにしながら取り組んでいきたい。

教科指導、寄宿舎の生活指導の充実、学科の専門性を生かした教育の推進、キャリア教育の推進、そしてその土台として肢体不自由の生徒が自己実現を目ざす、心と体の発達を目ざすための自立活動の充実をめざしたい。

学校生活、寄宿舎生活の指導の融合性を目指していきたい。

方法論として「個別最適な学び」、「協働的な学び」をバランス良く、社会とつながる教育活動や自立活動にかかわる専門性の向上を図りたい。

最終的には教職員、生徒の立場はあるが「人対人」として人権、尊厳を大切にしておこなっていききたい。

重点としては、「自立した社会参加に向け一人一人の意欲と可能性を引き出し、新しい時代を生きていくための資質と能力、心を育てる」とし、具体的実践事項を挙げて、教務、舎務で取り組んでいきたい。

実践事項の教務8、寄宿舎5のSDGs・ESDは共通の取組事項になるが、具体性を持たせて取り組んでいきたい。

イメージ図として、全体構造図を示している。本校の教育がキャリア発達を促していく学びを支え、最終的には自己実現としての社会的、職業的自立、共生社会の一員という意識をもてるよう、本校の3年間を過ごしてほしい。

課外活動（外局活動や部活動）や寄宿舎生活もある。先日はパラリンピック強化選手として卒業生が紹介されていたが、個々の社会活動が充実するように、具体的にどのような関わりを持っていくか、本校の教育活動との連動を考え、意見を伺いながら4月からの教育活動をすすめていきたい。

4 協議の内容・各委員からの意見など ～学校評価から見る学校課題と改善策～

<地域との連携>

- ・ 共生社会は行政も力を入れている。テーマを持って地域の資源を活用し協働して学ぶことで、コミュニケーションの場となり、生徒の成長につながるのかなと思う。

本校と他校の生徒等と一緒に学ぶ場を作り、お互いを理解し合う場があっても良いのでは。

- ・ 学校側の周知が足りないのか、バリアフリーや合理的配慮が地域としてなっていないのか。この地域は認定子ども園もあり、密集しているからできることもあるので、勤務している先生方も意識してもらえるとよい。
- ・ 地域に目を向けてもらえるよう、3年間を地域で楽しんでもらえればと思う。外に出られるような子供達に育ってほしいと思う。
- ・ 地域との共生とは外に出ることだけではなく、事業所さんとコラボすることで地域とのつながりができるのではないかな。授業の中で地域を知ることをしていく

と、外に向けて発表できるとつながる気がする。岩見沢のことを知るためには教職員も知る必要が出てくる。学校祭で発表しよう、家族に振る舞おうという取り組みは面白い。

- ・ 「探究」の時間など、カリキュラムの中で地域の高校生と一緒に学ぶ時間帯を作ることができれば良い。コロナの前は農業高校と花壇の花植をしていたが、活動が止まっている。再開するきっかけや一緒にできること探しをしていくタイミングかとも思う。工業科のプランターを地域で活用するなど。普段の学習を生かしていくと進めやすいのでは。
- ・ スタートとしては、いいものを見つけて外に発信する。セコマで生徒がデザインしたものが売れると良い。学校の中だけではなく、地域や他校で売れると良い。売上金を社会貢献に使うのは良い。函館の高校がワインを開発し、パッケージも作っている。
- ・ 外に目をむけて、普段の学習の延長線上でやっていけると良い。課題研究を通して外に目を向けているところもある。コロナも落ち着いてきているので、来年度は工夫できる部分が多いと思う。
- ・ 教員が毎日、キャリア教育を見せている。目指す生徒がいれば、小学校も協力していきたい。交流も含めて生徒が考える探究をすすめていければ。
- ・ 運営協議会、連携協議会、東ブロック学校関係者委員会は高校の校長、生徒指導、福祉の関係も集まり、子供のようすを交流できる。来年度は、櫻田校長を推薦しようと思っている。きっかけとなると良い。
- ・ 自分は障がい者と関わる、支援学級の生徒と関わる中でこの仕事を決めた。特別支援も教員のなり手は少ない。小さいときから身近に感じてもらえることで、特別支援教育に携わってみたいという気持ちにもつながるのかなと思った。
視野を広げていかなくてはと思った。意見をもとに、積極的に関わっていきたい。委員の皆様のご協力を得て、来年度も進めていきたい。

<生徒理解と今後について>

- ・ 学校評価にあった「自分が一番成長したと思うこと」の項目で「ない」「わからない」と回答している生徒の背景など学校生活を協議すると違った方向性が出てくるのでは？「ない」わけではない。この生徒の背景はどうかを考えるなど先生方で協議するテーマになっていくと良いと思った。
- ・ ガイドラインも整理された。福祉サービスを利用するとなると、自分で決められるかは重要。自分を表現できるようになったことは今後、生かされていくと感じた。
- ・ 自立した活動ができるようになってほしいと思って、ここに入れているので、家ではできなかったこと、やってほしいなということが増えてきた。できるようになったことは感謝しかない。コロナもあって十分にできなかったが、PTAとしても地域活動ができるように引き継いでいきたい。進路については、札幌の肢体不自由特別支援学校の Co と情報を密にするといいかと思った。学校経営の方向性は良いと思うので、常にブラッシュアップして学校が良くなっていくと良いと思う。

5 校長挨拶

すごく大事な話だった。自分の中でもさらに膨らませてから改めて話をしたい。来年度、職員

構成も変わるが、年度末にいただいた意見を職員と共有しながら、次回の協議会を待たずにお話をさせていただくこともあるかと思うがよろしくをお願いしたい。

お力添えを今後ともよろしくお願いしたい。

6 連絡

記録は後日、手元に届けるので意見等も伺いたい。

